

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-01	お宝名称	いちりづか 有松一里塚
所在地	緑区有松町往還北		

徳川家康は慶長9年（1604）秀忠に「一里塚」を作るように命じました。これは江戸日本橋を起点とし各街道の両側に、一里（4km）の目印となる塚木（つかぎ）（榎：えのき、松、樺：けやきなど）を植え、行程の目安、又休息の場とか籠代：かごだい・荷物などの運賃計算の基準にもなっていました。

緑区史によると、「有松一里塚の大きさは、方五間（約9.1m）で、松並木から目立つ様に塚頂上に榎を植えた。鳴海町字鎌研4・5番地の両側に完全な姿の一里塚が残っていたが、大正13年 国から民地に払い下げられその後 塚が消滅した」と記載されています。

この一里塚の東には豊明の阿野、西には笠寺に一里塚が管理保存されています。このような経緯から、有志による再建への強い要望を働きかけてきましたところ、国土交通省がこれに応え平成24年3月 現在地に「有松一里塚」が再現されたことは歴史町づくりの名古屋市民としても大層嬉しいことです。



復元された一里塚

H24. 2. 3 完成



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-02	お宝名称	ながさかこどう 長坂古道
所在地	名古屋市緑区有松 長坂道		

有松の西、祇園寺門前から国道1号線に通じる道幅1間ほどの小道の入口があります。この道は天保12年（1841）の桶狭間村絵図にも記載されている東海道より古い道です。古道北端は祇園寺で、当時は東西をつなぐ重要な道であったと思われます。別名桶狭間村道、刈谷街道と呼ばれていました。絞りで繁盛した時代、商家の裏道でもあり、道脇には紺屋（こんや）などの絞りの下職が点在していました。

この小道は背後の樹木や倉がマッチし、日中でも人通りの少ないが故に 季節の折々に見せる風情は人々の心をほっとさせてくれます。＊引用文献、加納誠著「旧街道のなぞに迫る」



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-03	お宝名称	ぎ お ん じ さんじゅうさんかんのん ぶつそくせき 祇園寺と三十三観音・仏足石
所 在 地	緑区有松 221 番地		

祇園寺は有松の西端に位置しており、有松の人々の菩提寺で曹洞宗（そうどうしゅう）祇園寺は有松の大火天明 4 年（1784）以前の宝暦 5 年（1755）に、鳴海の円道寺より移設建立されました。

ここには三十三観音石仏が有松村の名の知れた人たちにより、天保 12 年（1841）に寄進され、又地藏菩薩、薬師如来、不動明王、弥勒菩薩像（みろくぼさつ）など見るができます。



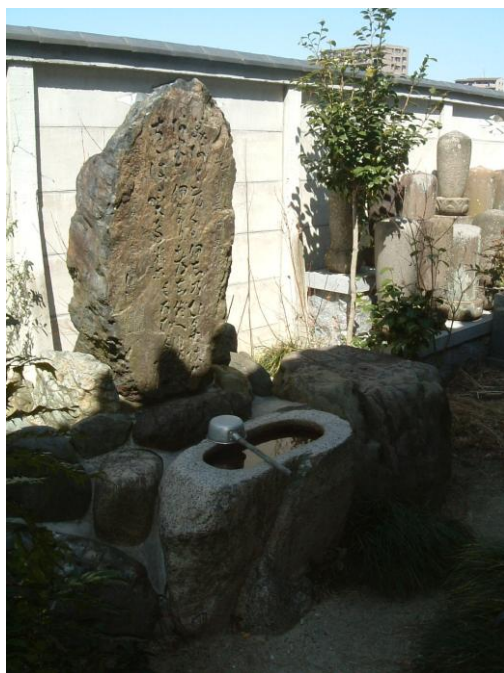
祇園寺



三十三観音像

又、本堂西には お釈迦様の足跡に由来する仏足石があり、文政 11 年（1828）に作られたものです。

奈良の薬師寺の模写ですが歌碑には光明皇后（こうみょうこうごう）によるもので「御跡つくる石の響は天に至り地さえゆすれ父母がために諸人のために」と刻まれています。



本堂西にある仏足石

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-4-1	お宝名称	てんましゃきりどお 有松天満社切通し
所在地	名古屋市緑区有松 221 横		

東海道筋の祇園寺東から北へ入り天満社の鳥居までの約 150m程で天満社山道へ導く参道です。この間に名鉄本線の踏切のあります。

この切通し入り口には、天保 13 年（1842）建立の常夜燈一対が立ち、それには刻銘が以下のようにあります。



東側（正面）：文章嶺天満宮（右）神徳昭 昭光放家門 祖業繁栄永福兒孫

西側 正面）：文章嶺天満宮（左）天保十三年壬寅春正月吉日

竹田庄九郎直行・服部清兵衛守信

久田伊左工門庸治

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-04-2	お宝名称	てんましや 有松天満社
所在地	名古屋市緑区鳴海町		

有松村の開村慶長13年（1608）当初の氏神は桶狭間の神明社でありましたが、有松村の繁栄に伴い 祇園寺境内に安置されていた天満宮は、寛政時代（1789～1800）の初め、現在の所に神廊を建立しました。その後文政7年（1824）には新しく八ツ棟造（それぞれの棟に破風を備えた立派な屋根を重ねて配置する建築様式の総称）という、大層立派な高廊を構えたお宮に改築されました。これも有松の方々により莫大な資材・基金を寄付され建造されたものです。

大祭は2月25日、8月16日（旧暦）に行われ、ねり物が多数あったと文献に記されています。現在は3月第三日曜日と10月第一日曜日に行われています。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-05-1	お宝名称	にしまちだしこ 西町山車庫と神宮皇后車
所在地	緑区有松 804 番地		

西町の山車庫は有松にある三輦の山車（だし）の一つ神功皇后車（じんぐうこうごうしゃ）を収納する山車蔵で、明治の初期に建築されたものです。名古屋市景観保存にも指定されています。

山車は有松で唯一地元が制作に携わり、明治 6 年（1873）に西町の有志が名古屋市久屋町の大工久七に製作を依頼したものです。山車も昭和 41 年に文化財に指定されています。

当初、武将人形でしたが、明治 28 年の日清戦争後、現在の神功皇后と武内宿禰（たけうちのすくね）の人形に変えました。3 体目は神官の前人形として舌をペロリと出す独特なからくり人形です。毎年 10 月の第一日曜日の秋の大祭には、神功皇后車を山車庫より引出す伝統を守り今日に至っております。



西町山車庫



神宮皇后車

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-05-2	お宝名称	なかまち 中町（清安町）	きよやすまち 唐子車	からこしゃ ・	だしこ 山車蔵
所在地	緑区有松町 1910 番地					

中町の唐子車は、天保年間の 1830 年に尾州（現在の知多半島）内海で千石船の貿易で巨万の富を築いた五代目前野小兵治（まえのこへいじ）さんが、嫡男が生まれたお祝いに約 20 年の歳月をかけて造られた山車です。

材料は唐木づくりで、特に鉄刀木（たがやさん；マメ科の広葉樹。タイ、インド、インドネシアなどの東南アジア原産で三大唐木の一つ）をふんだんに使い、輪掛けには青貝をちりばめた螺鈿細工（らでんざいく）を施し、赤珊瑚（サンゴ）の房など贅沢（ぜいたく）の限りをつくしたもので、全国でも類を見ない豪華な山車です。

からくり人形は、3体の唐子人形が乗っておりメインの人形は文字書からくりです。これは、有松天満社の祭神が学問の神様菅原道真（すがわらみちざね）公で有る事から来ていると伝えられています。

又、前人形は当時の名工二代目隅田仁兵衛真守（すみだにひょうえ）が弘化4年（1847）に制作したものです。その後、ご当地の高宮神社の祭礼に引き回されていた所、縁あって明治8年（1875）、有松に譲渡され現在に至っております。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-05-3	お宝名称	ひがしまちだしこ ほといしゃ 東町山車庫と布袋車
所在地	名古屋市緑区有松 3013 番地		

布袋車は延宝2年（1674）名古屋の下玉屋町が造り、若宮祭で曳かれていたものですが、当時の東町の有志が名古屋袋町の古道具屋で売られていたのを明治24年（1891）に1,300円の寄付を募り買い取り、その年より祭りで曳かれるようになりました。

山車には、布袋和尚1体、文字書き唐子人形2体、前棚の采振人形の4体が前面に乗り、からくり紐でいろいろな動きを操作出来るようになっています。

また、布袋車の四方を囲む山車幕の正面には、鳳凰（ほうおう）、右側面には亀と龍、左側面には麒麟（きりん）の麟鳳亀龍（りんぼうきりゅう）の金糸縫で、また後面の詩歌は柳沢吾一の書でとても豪華で特色のあるものです。下絵は山本梅逸（（やまもと ばいいつ） 天明3年（1783）10月20日 - 安政（1856）3年1月2日：江戸時代後期の文人画家。名古屋の生まれで、尾張南画の代表的画家 通称は卯年吉（うねきち）。 画号は春園・竹巖・梅佚、のちに梅逸とした）です。

山車庫は橋東町の所有で社会の変遷と共に2度移転し現在地に至り、現在は文嶺講が管理しています。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-06	お宝名称	こづかけ 小塚家
所在地	緑区有松 806 番地		

小塚家住宅は平成4年に名古屋市指定有形文化財になりました。
主屋の外観は白漆喰の塗籠造（ぬりごめつくり）、桷（卯建・宇立とも書く：うだつ）、連子格子（れんじこうし）、海鼠壁（なまこ）、虫籠窓（むしこまど）、邸内には二つの蔵があり、左側が女中部屋、二階が小僧部屋となっており、茶室は尾州久田流下村宗匠（しもむらそうしょう）好みと言われていいます。天明4年（1784）の大火後防火構造を備えて造られた典型的な有松絞商住宅の一つです。東海道に面した正面入口の東側柱には、220年の歴史を物語る当時の荷役に用いられた馬を留める手綱を縛る駒止（こまどめ）が今も残っています。当家の屋号は山形屋（やまがたや）といい、現在のご当主は12代目で9代目助三郎さんまで絞り商でした。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-07	お宝名称	お か け 岡 家
所 在 地	緑区有松 809 番地		

岡家住宅が建築されたのは江戸末期です。
 建築様式は**連子格子**（れんじこうし）、**海鼠壁**（なまこ）、**虫籠窓**（むしこまど）、**塗籠造**（ぬりごめつくり）、となっており、二階の底下の**塗込造**（ぬりごめづくり）が波状であるのが、この主屋の特長です。当時の重厚な有松絞り商の建築形態をよく残した建物で、一棟の建造物としては有松で一番大きい建物です。昭和 62 年に名古屋指定有形文化財になっております。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-8-1	お宝名称	たけだ かへい 竹田嘉兵衛家
所在地	緑区有松 1802 番地		

竹田家は屋号を笹加（ささか）と言ひ、江戸時代より現在にいたるまで、絞製造業という同一職種を同じ建物の中で継承して続け、現在 8 代目のご当主がおられ、絞り商の歴史を物語っています。



竹田家正面

建物は江戸末期から明治初期にかけての絞り問屋としての造りをよく残しており、建坪 250 坪です。天明時代から、幕末・明治・大正の時代に亘り敷地 800 坪の中に増改築されており、特に主屋と書院・茶席は重厚な造りで建築学的にも貴重な建物になっています。この他に蔵 5 棟があり、連子格子、海鼠壁、黒漆喰の塗籠造に虫籠窓と有松の商家の特長をそなえているものです。屋根には明治初期のガス灯の名残のランプがあり、当家は代々「嘉」の字を襲名なされています。平成 7 年に名古屋市指定有形文化財になりました。

下：正面右手の蔵



横塀



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-8-2	お宝名称	たけだけすいきんくつ 竹田家水琴窟
所在地	名古屋市緑区有松 1802 番地、竹田邸内		

水捌（みずはけ）の悪い茶室の蹲（つくばい：茶庭などに据える手水＝ちょうず鉢）に水琴窟をそなえますが、蹲を知らない人も多く更に水琴窟も知られていないと思います。

ましてや、水琴窟の音色を聞いた人は更に希ではないでしょうか？

ぜひとも一度は聞いてみたいものですが、残念ながら一般公開には困難な邸内奥に位置しております。

水琴窟が設置されたのは 1975 年（昭和 50）ですが、**将軍家茂**（しょうぐんいえもち）も休息をし、**勝海舟**（かつかいしゅう）もおそらく入ったと思われます茶室があります。残念ながら築庭された年代は不明で、しかも庭の形態は戦時中 防空壕づくりの為に庭を壊しているため当時の姿そのものではありませんが、当時の雰囲気を感じするには十分でしょう。



竹田家水琴窟のある茶室庭

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-8-3	お宝名称	勝海舟茶掛軸
所在地	緑区有松 1802 番地、竹田嘉兵衛家		



竹田嘉兵衛家の茶室は名古屋市の有形文化財に指定されていますが、その茶室の床の間に、勝海舟の軸装された色紙が掛けられています。

このことは、竹田嘉兵衛（5代）と勝海舟は何らかの接点があったと考えられますが、残念ながらそれを示す古文書等はありません。

しかし有松を勝海舟は訪れたと推察されるのがこの色紙と考えられます。又、他の軸装されたものに明治14年11月竹田氏に頼まれて書いた溜漉（ためずき）が有名です。

豈知大道坦然平至人應物不留物

海舟

（豈大道を知るや坦然として平ならん 至人になさん物に應じて物を留めず）

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-9-1	お宝名称	ゆうびんさしだしばこ 郵便差出箱 1号丸型（丸ポスト）
--------	-------	------	--------------------------------

所在地	緑区有松 815 番地 岡邸すぐ東寄り
-----	---------------------

このポストの所在地は中町交差点を西に進み、竹田家を過ぎるあたりの左側です。ポストの形は、昭和 59 年にそれまでの丸型から角型に更改となりましたが、地元の要望により昭和 62 年に丸型に戻りました。名古屋市内でわずか 3 基現存する丸ポストの中の 2 つが有松に存在するという貴重な存在です。（平成 24 年現在）

美しい町並みの中に赤色の丸ポストがある風景は見るものを懐かしい気分にさせてくれます。



郵便差出箱 1号丸型 昭和 27 年 製造

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-9-2	お宝名称	ゆうびんさしだしばこ 郵便差出箱 1号丸型（丸ポスト） こうまるがた
所在地	緑区有松 3410 番地（名古屋有松郵便局前）		

有松鳴海絞会館～東へ約300m、有松郵便局の角に丸型郵便ポストがあります。
この郵便局は平成10年、町の風情に合わせ町屋風に新築し、町並みのシンボルの一つになっています。

また、この2本目の丸ポストは平成11年7月 碧南市より丸型を移設したもので、懐かしい風景の一コマです。これも昭和27年製造のものです。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-10	お宝名称	ほそね はいせいまつおばしょう 細根と俳聖松尾芭蕉
所在地	名古屋市緑区鳴海町細根地内		

鳴海の造り酒屋千代倉の当主下郷知足（しもさと ちそく）は俳人松尾芭蕉を師と仰ぎ、旅道中の宿を提供しました。その事は「笈の小文（おいのこぶみ）」などに記されています。また、知足は細根に別荘を持っていたため、そちらに逗留することもしばしばありました。

当時、細根は名所図絵に描かれるような風光明媚な地でありました。細根で詠まれた句、

よき家や雀よろこぶ背戸の粟

これは知足の第三郎左衛門の新宅を祝った句と伝えられるものです。

下郷家の細根別荘は有松駅を北に細根に向い、途中細根天満宮の標識を東に下り、天満宮入口の小高い丘を東に駆け登った所で、有松天満社の北西、細根天満宮東の丘陵北斜面、料理屋「天今」の東に当たるところで、現在建物はありませんが下里家の清楚な墓地付近は往時の縁（よすが）を偲ぶことができます。

桶狭間の戦い・絞り・町並みで語られるこの地域が、文学的視点から 芭蕉、その後のアーネスト・サトウの足跡は大きく、この地が文学でも関わりがあったことを知ることは誇らしいことではないでしょうか。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-11	お宝名称	てごしがわみずべ 手越川水辺の風景（服部邸～中濱邸 ^{かいわい} 界隈）
所在地	名古屋市緑区有松旧橋東北一帯		

東の蔵工房から西よりの中浜までの小さな川―手越川沿いに、三つの橋が掛かっています。これらの橋からみる東西の景色、有松の表看板・町並みの裏風景はちょっとした見所です。

服部邸に桜が咲き、満開の花びらが川面に散りゆくさまは一年の内でも格別なもの。こんな風景は有松を訪れるひとに是非ご案内したいものです。

昔、絞りが盛んな時代、上流の染工場から流れる染料の藍で染まり、藍染（あいぞめ）川」と親しまれた手越川です。この川沿いの風景は「水と緑と潤い」の場として心豊かに守り続けたいものです。



平成 24 年、名鉄有松駅南口より手越川沿いに東海道に通ずる遊歩道が整備される予定です。

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-12-1	お宝名称	はっとりけ やこう いげたや 服部家（屋号：井桁屋）
所在地	緑区有松 2313 番地		

屋号は井桁屋といいます。創業は寛政 2 年（1790）で建造されたのは約 200 年前です。敷地約 1,000 坪、棟数は 11 棟の大屋敷です。内訳は主屋 1（主屋根には**杣**=うだつがあがっております）、井戸館 1、客室 1、門 1、門長屋 1、**蔵** 6（蔵の名称は店蔵、末蔵 2、藍蔵、味噌蔵、宝蔵、蔵）となっています。

建築様式は**杣塗籠造**（うだつぬりごめづくり）、**虫籠窓**、**海鼠壁**（なまこ）、**連子格子**と有松の町屋建築のすべての特長を備えた建物です。昭和 39 年、愛知県指定有形文化財に指定されました。平成 7 年には敷地内のクロガネモチ（通称フクラシバ）は都市景観保存樹に指定されています。



服部家の裏門（名鉄線路の北側）付近で足を止めると文の左右に三層の立派な蔵風景が眺められます



裏門から入った庭内にある美しい石垣

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-12-2	お宝名称	服部家 よめいりかご 嫁入り駕籠
所在地	緑区有松 2313 番地		

服部家初代・二代の結婚式の折、花嫁が実家から駕籠に乗って実家の津島から服部家に嫁いで来られた時の駕籠（羽柴家・富永家）で、約 180 年～200 年前のものです。保存状態も良好であり、当時の富豪の婚姻習慣の一端が窺われるもので一見する価値は十分あるものです。

お店に入った正面の天井に飾ってあります。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-12-3	お宝名称	服部家防火バケツ
所在地	有松 2313 番地		

文久元年（1861 年）頃作られた防火用バケツであり、中は竹を編み外側は黒い和紙に柿の渋を塗り、和傘や渋団扇（しぶうちわ）と同じように防水性と強度を持たせてあります。

火災の時、手渡しで消火につとめたものです。側面には井桁屋号（いげたやごう）が描かれており豪商家が故の備品で、大火を恐れた様子が良く判るものです。現在、7～8個中庭の軒下に吊り下げられていますが、保管状態はあまり良好とは言えません。



井桁屋号が見て取れます

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-12-4	お宝名称	服部家 ばんぱくじゅしょう ロンドン万博受賞
所在地	緑区有松 2313 番地		

当時の万博開催の意味は、国威掲揚の場としてのものであったようで、嘉永 7 年（1885）から明治 33 年（1900）の間、5 回もパリで万国博覧会が開催されました。

その様な状況から、明治政府も富国強兵（ふこくきょうへい）を最重要課題とし万博を利用し日本製品の輸出振興を奨励し外貨獲得を図ったのです。また当時、日本の工芸・美術品は欧米の人達を魅了し芽生え始めていた日本趣味的な趣向：ジャポニズムは大変人気がありました。それを商機と捉えた服部家は、1900 年ロンドン万博に有松絞を出品し見事銀賞を獲得しました。

下写真の額縁は店内の正面右の壁に飾っております



上記写真説明

DIPLOMA FOR SILVER MEDAL JAPAN BRITISH
EXHIBITION 1900 SHEPHERDSON LONDON
AWARDED TO HATTORI MAGOBEI AICHI JAPAN

倫敦 千九百十年
(銀賞)

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-12-5	お宝名称	服部家 パリ万博受賞
所在地	緑区有松 2313 番地		

これも前項目と同様、パリ万博受賞（銅賞）を獲得した表彰状です。



上記写真説明

MÉDAILLE DE BRONZE
 千九百零年
 巴里萬國博覽會受領賞牌
 木綿絞
 愛知県服部孫兵衛
 （銅賞）

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-12-6	お宝名称	服部家 ^{ほそんじゅ} 保存樹 クロガネモチ
所在地	緑区有松 2313 番地		

服部家の黒塀越しに大きな大変立派な樹木が睨を見下すようにそびえているのが見えますが、これが東海道有松地区最古の樹木です。名古屋市保存樹指定の番号（緑）3号に指定されており、都市景観保存の樹で貴重な存在です。

この木はクロガネモチ（別名 クラシバ：福が来る）と言ひ、樹齢約 400 年以上と云われ、高さ約 15m 幹廻り約 2.2m程あります。東海道開通の頃から参勤交代の行列や世の移り変わりをしながら、有松の町と又服部家の過去 400 年の出来事をゆっくり語ってもらえるような大木です。



通りからも望む
クロガネモチの大木です



大木振りは人と比較してみてください

有松・桶狭間お宝カルテ

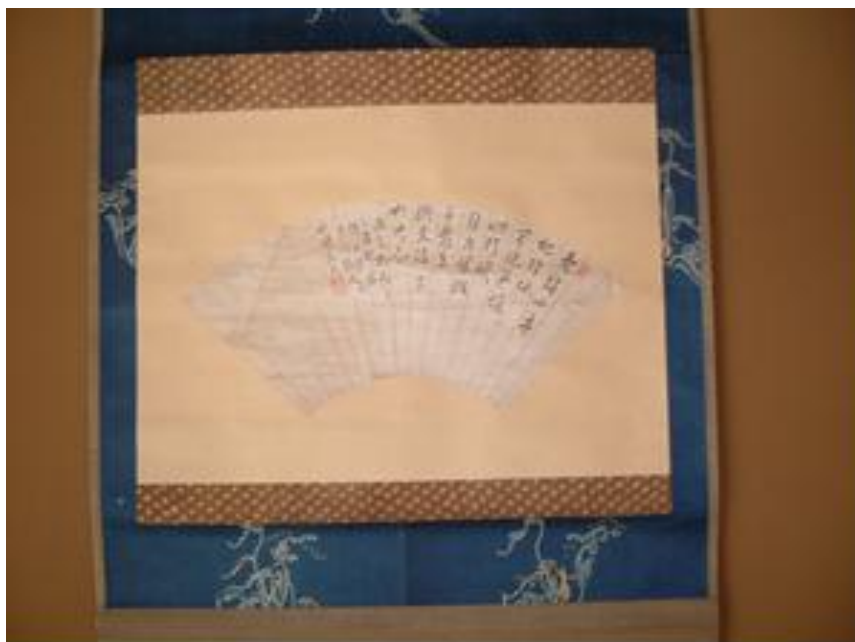
町並みのみち	M-12-7	お宝名称	服部家と頼山陽 ^{らいさんよう}
所在地	緑区有松 2313 番地		

服部家二代目の妹いわが、京都 山本春正（やまもとしゅんしょう）家（春正家五代目次郎兵衛）に嫁ぎました。春正家は江戸時代の有名な蒔絵師であり、春正家の紹介で頼山陽が有松服部家に宿泊し、その折に残した 扇面に有松の様子を漢詩で表した頼山陽自筆のが残されています。

注；頼山陽（らいさんよう）は江戸後期の儒者・詩人で、父は広島藩儒で頼春水（しゅんすい）です。山陽は 1811 年（文化 7 年）頃京都で開塾していました。著書としては「日本外史」「日本政記」「山陽詩鈔」等があります。



茶室床の間に掛かっています



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-13	お宝名称	寿限無茶屋と土蔵
所在地	緑区有松町 2339 番地		

寿限無茶屋は「井桁一」(現服部良也家)の分家出で元来は絞商でした。その後の変遷の中で昭和 59 年にうどんの店をお興し、落語好きな当主が**寿限無茶屋**(じゅげむちゃや)と名付けました。ここには絞商「井桁屋」の大番頭石川重助の 3 代目が造った土蔵があり、当時の技術の粋を尽くし黒漆喰(白漆喰より高品質と言われる)など細部まで匠の技が施されています。規模としては有松最大級と言われ、「蔵が建つ」の言葉のように往時の絞商の繁栄とその心意気が偲ばれます。

寿限無茶屋店頭



黒漆喰土蔵

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-14	お宝名称	めいじころ 明治頃の有松の町並み 有松山車会館蔵
所在地	緑区有松 2338 番地		

1 枚 500 cm×1500 cm、3 連の横長な絵で、ここには「明治頃の有松の町並み」が大きなみちの狭間の集落として描かれています。東海道有松山車会館内、一階座敷壁面に掛かっています。

一昔前、有松の集落ではどんな暮らしをしていたのでしょうか？

ほのかな灯りに照らされた一枚の絵と向き合い“昔話”をしてみたい衝動にかられる絵です。

作者は**鈴木不知**（すずきふち）明治 3～昭和 5 年）。作者の履歴は定かではありません。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-15	お宝名称	アイ子 16 才” – 「 ^{かわたけこうじ} 河竹小路」
所在地	名古屋市緑区有松 9 1 9 番地横小路		

西町左右の美しい町並みに眼を奪われて、誰も見落としてしまうひっそりとした心落ち着く小路です。ここは、往還北、両河村邸に挟まれた間口 1m 余の屋でも日陰気味の奥に深く、一見（いちげん）さんには つい見過ごされてしまう様なたたずまいをしています。しかし、この小路に入ってみるとこれがまた乙なもの。30m も入って振り返り眺めみると、明るい東海道の道筋をひとが一人、また一人、東へ西へと往き来する風情は昭和・大正時代に遡ったかのような錯覚を覚えさせてくれます。この場面は、確か昔、映画「アイ子、16 才」が撮影されたところです。

「河竹小路」一絞問屋、川村屋の一番番頭河村竹次郎が独立後 3 年間、絞りからの封印を解かれ、絞商を営んだところです。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-16	お宝名称	せんとう 銭湯	あずまゆ 東湯
所在地	名古屋市緑区有松 3127 番地			

有松郵便局前、北側路地を右に廻り込み、手越川の手前左折。「ゆ」の字ののれんをくぐると、そこは番台。大人 380 円、小学生 150 円、幼児 70 円を払い、ガラス戸を抜けると、湯気モーモーの大きな湯舟です。昔は正面の壁に「富士山」の絵がありましたが、残念なことに今はありません。

ここは、町並みの傍らに大きな煙突の見える銭湯「東湯」です。
明治、大正、昭和、平成と続く、老舗のお風呂屋さんで一昔前までは、商売屋さんの終湯（しまいゆ）で夜の 12 時頃まで賑わったものですが、いまは 16:00～21:00（日曜定休）の営業時間で、昔ながらの まちなかの銭湯はめっきり減ってしまい、この界隈ではいまやここだけとなりました。貴重な存在です。

有松桶狭間散歩の最後はここで一休み、一休み。「いい湯だな、いい湯だな」。



有松郵便局前の小道を行くと前方に煙突がニョキッ！

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-17-1	お宝名称	東海道・有松歌碑シリーズ かひ 鈴木 腹 すずき あきら
所在地	緑区鳴海町境松 1-115 番地 マンション Le abbollire 前		

東海道東端の北側にレンガ風のマンション Le abbollire がありマンション入り口の左側に歌碑があります。

多知奈羅夫

波那能二志畿登以徹吾登爾

加計和多之太留玖々里曾米迦奈

(たちならぶ はなのにしきのいえごとに かけわたしたる くくりぞめかな)

離屋鈴木腹

鈴木 腹：国学者、通称常介(助)（じょうすけ）、字は叙清（しゅくせい）、号は離屋（はなれや）。尾張藩士であったが、学問を好み、本居宣長の国学に傾倒し、のちに藩校明倫堂の教授となりました。原典は、国学者らしく万葉かなで書かれています。



有松の町に相應しい風景になっています

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-17-2	お宝名称	東海道・有松歌碑シリーズ かひ たんたん 淡々
所在地	緑区有松 3309 番地（絞里堂前）		

東海道東端の松根橋の西に この歌碑があります。

有松や 家の中なる ふちのは那

淡々

松木淡々（まつき・たんたん）は、延宝2年(1674)大阪西横堀に生まれ、幼名熊之助、のちの伝七と言われました。江戸に出て立羽不角（たちばふかく）、榎本其角（えのもときかく）に俳諧を学び、また芭蕉に師事し呂国の号を受けました。後に京都や大阪で居住し、人気集めも上手であり独特の俳風にて多くの人気を博した俳人ですが、一方世相に敏捷で商才にも優れて巨財をなした人でもありました。



平成16年建立

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-17-3	お宝名称	東海道・有松歌碑シリーズ か も す え た か 加茂季鷹
所在地	緑区有松 2306 番地(中濱邸前)		

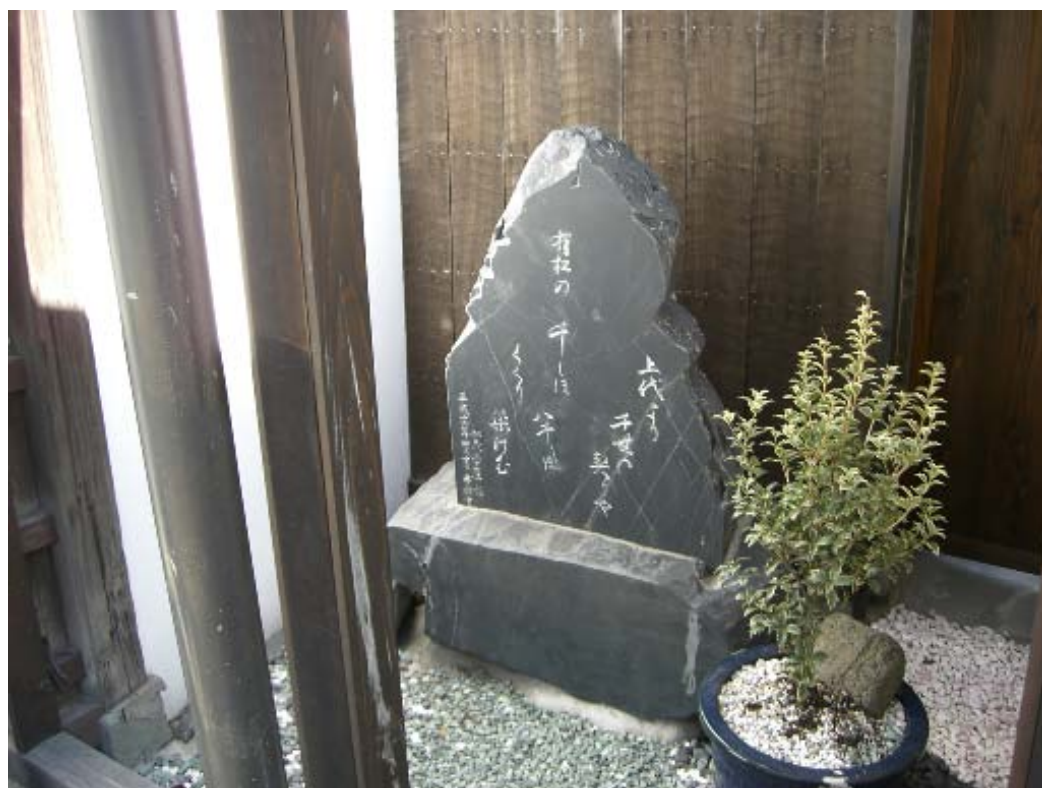
歌碑は東海道中町交差点の東、中濱家正面の右側にあります。

上代より 千世の契りや有松の 千入八千入九九利染めけり

加茂季鷹

加茂季鷹（かものすえたか）；、江戸後期の歌人・国学者で香川景樹とともに「二大歌人言われた偉人。本名山本氏。京都生まれで号は生山・雲錦。宝暦 4 年 2 月 6 日～天保 12 年 10 月 9 日（1754－1841）88 歳

和歌を**有栖川宮職仁**（ありすがわのみやよりひと）親王に学び、19才の時に江戸に下り、加藤千陰ら歌・文人と交流しました。狂歌を得意とし、居を雲錦亭と名づけ歌仙堂を設けて賀宴・歌会を催すなど交友も多く、風流な生活をこととした人です。



平成 16 建立

有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-17-4	お宝名称	東海道・有松歌碑シリーズ いそまる 磯丸
所在地	緑区有松 1910 番地		

東海道中町交差点から西の、中町山車庫正面の左側にあります。

そめそめて あけも美とりも 有松の

里の栄は 色にても知れ

磯丸

糟谷磯丸（かすやいそまる）：渥美半島の先端伊良湖村の生まれ。

1764 年（明和元）年 5 月 3 日に生まれ、1848 年（嘉永元）年 5 月 3 日に 85 歳没。

漁夫の出で 通称新之丞一般には、磯丸様と呼ばれていました。もともと一漁夫なので、文字を書くことができませんでしたが、やがて文妄の歌詠みとして世間に知られるようになり、そして隣村（亀山）に住む大垣新田藩の郡奉行**井本常蔭（いもとじょういん）**に見出され、文字や和歌の指導を受け「磯丸」という名が貰い受けました。



平成 17 年建立

有松・桶狭間お宝カルテ

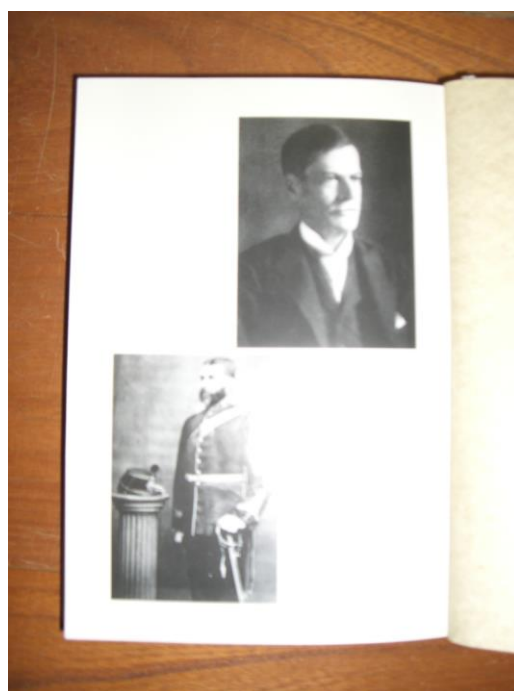
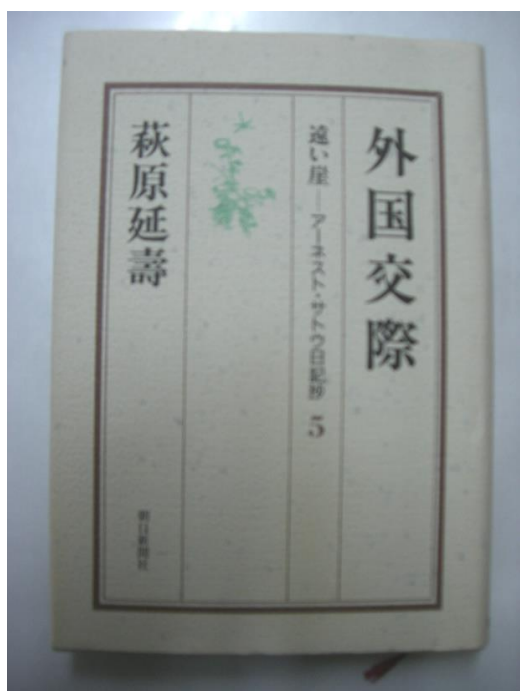
町並みのみち	M-18	お宝名称	アーネスト・サトウと幕末の有松
所在地	大手出版社による記録		

英国外交官・アーネスト・サトウの日記が残した幕末の有松の印象

イギリスの外交官アーネスト・サトウ（1843～1929）は「一外交官のみた明治維新」（岩波文庫）、「日本旅行日記」（平凡社）、「明治日本旅行案内」（平凡社）など、日本に関する著書を多く遺しました。そのもとになったのは、彼の克明な日記です。

萩原延壽著「外国交際遠い崖ーアーネスト・サトウ日記抄 5」（朝日新聞社）によれば、アーネスト・サトウは慶応3年（1867）5月18日、京の伏見を発って東海道を江戸に向い、5月23日に有松に立ち寄り、『しぼり』があると思って鳴海に着いたがここに『しぼり』はなかった…さらに、約一マイルゆくと、有松に着く。ここには『しぼり』を売る店がある。十軒ないし十二軒の大きな白壁の家がたっていたが、これらは、わたしが日本で見た家の中で、もっとも清潔な建物である」と記しています。

この書は、英国外交官が体験した「幕末の有松」の印象をこのように卒直に残しており、有松にとっては、版画家・安藤広重の“浮世絵証言”に続く、幕末の有松を知り、記録した大変貴重な証言です。このことを有松に最初に紹介した方は姥子山在住の伊藤加余子氏です。



有松・桶狭間お宝カルテ

町並みのみち	M-19	お宝名称	中川・藍染川遊歩道（仮称）
所在地	名古屋市緑区有松 2306 番地 中濱商店周り		

有松東海道を歩いていると「中川橋」と彫られた石柱が建っている所があります。そして藍染川の方に美しい歩道があります。

この道は、有松土地区画整理事業の一環として、中濱商店の周りに有松東海道と名鉄有松駅を結ぶ歩行者専用道路として、平成24年5月に整備されました。整備に際して、地元の意向で藍染川側には柳が植えられ、町並みに合った柵・街路灯が設置され、歩道面も明るい色の舗装が施されています。

この遊歩道に面した中濱邸の石垣と板塀は国登録文化財であります。石垣は場所により、間知積み・丸石積み・亀甲積みとなっております。

石垣と塀そして柳と藍染川を見ながらの歩きは、有松の情緒を醸し歩行者の心を落ち着かせてくれるでしょう。

中川遊歩道（有松東海道側入り口）



藍染川遊歩道（有松駅側入り口）



